

2. 教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働の実現」事業

(オンデマンド研修事業部会)

(平成23年度新規事業)

1 はじめに

岡山大学教育学部と教師教育開発センターは、平成23年度より5年間にわたって「教員の資質向上に寄与す『大学と学校・教育委員会の協働』の実現ー学校教育改善との連動で教員養成教育を進化させるー」というプロジェクトに取り組む。この事業の1つとして、大学と学校・教育委員会（岡山県・岡山市・倉敷市）が協働し、学生が学校において継続的にインターンシップ的な実習に取り組むことで教育実践力を高められる教員養成教育の改善と、学校の求める研究・研修に教育学部教員が貢献することで学校教育の充実・発展に貢献するオンデマンド研修とを結びつけて実施する事業に取り組むこととなった。

学部担当教員は、住野好久、東條光彦、川田 力、熊谷慎之輔、金川舞貴子、センター担当教員は、高旗浩志、樫田健志、三島知剛、後藤大輔、計9名である。

2 平成23年度の取り組み実績

(1) 岡山市教育委員会・操山中学校区の学校園との協働

①オンデマンド研修の実績

- ・特別支援教育に関する研修（三軒小：仲矢）
- ・授業指導に関する研修（三軒小：原 宇野小：田中(智)）
- ・組織マネジメントに関する研修（宇野小：金川・熊谷）
- ・幼稚園教育実践に関する研修（三軒幼・宇野幼：住野）
- ・岡山市教委による「いきいき学校園づくり」事業（操山中学校区）に、住野・三島が参加。
- ・岡山市ユネスコスクール推進事業に、住野・川田が参加し、委託事業を実施。

②教職実践インターンシップの実績

- ・操山中学校：11月上旬から3名の学生（4年生）が、週に1日のペースで実施。配属された学年で朝の会、帰りの会、給食、掃除等を共にし、職員朝礼にも参加。1日のうち3時間はTTの形で授業補助（学生の専攻科目と専攻外科目の両方を含む）。残りの時間は学校を自由に見て回る。1名は放課後の部活指導にも参加。
- ・三軒小学校：10月下旬から1名の学生が、週に1日「体育授業補助」を中心に実施。

(2) 倉敷市教育委員会・多津美中学校・庄中学校・倉敷第一中学校との協働

①オンデマンド研修の実績

- ・Q-U調査（学級満足度調査）2回実施（3中学校）及び研修（庄中・倉敷第一中：樫田）
- ・新学習指導要領に関する研修（多津美中：住野）
- ・特別支援教育に関する研修（倉敷第一中：仲矢）
- ・ミドルリーダー育成（倉敷市校長会：金川）

②教職実践インターンシップの実績

- ・多津美中：平成23年9月5日（月）～10日（土）に、4名が、職員朝礼（8：15）から部活動終了時・下校指導（18：30）まで活動。体育会の練習補助等を1週間通して実施。給食・清掃は所属学年で生徒と一緒に。

・多津美中・庄中・倉敷第一中：平成23年11月7日（月）～平成24年2月末まで。

多津美中は週1回終日、庄中は週1回終日、倉敷第一中は週1回午前中&週3回終日及び午前中。所属学級を置いてもらい、主に授業のTT。部活動には指導者の立場で参加。給食・清掃は所属学級教室で生徒と一緒に。

3 今後の展望と課題

今年度のこの事業は、岡山県・岡山市・倉敷市教育委員会及び学校園に本事業の趣旨を理解していただき、岡山大学教育学部・教師教育開発センターとの間でお互いがお互いのために協働しあおうとする信頼関係を構築し、可能な範囲でオンデマンドに研修を支援するとともに、来年度の教職実践インターンシップ試行に向けて必要な情報を得るためのプレ試行を行うことを目標としていた。

①オンデマンド研修について

今年度、様々なテーマで研修の要望を承り、多くのオンデマンド研修を実施することができた。研修を実施した学校園では、研修後実施校から参加した教員の満足度が高いとの報告を受けている。しかし、必ずしも学校の要望に充分応えることができたわけではなかった。原因としては、第1に学校が希望したテーマの研修にふさわしい講師を見つけられなかったという大学側の力不足がある。「同僚性を高めるために、あまり肩肘張らないで研修を受けた後、職員全体をフワッとできるような話ができたら」（多津美中）、「保護者が学校へのちょっとしたことで苦情を言うケースが多いので、保護者が子離れできるような話をしてもらえたら」（倉敷第一中）という学校の要望に応えることができなかった。第2に、学校現場で広がっている多忙化によって、校内研修の時間を確保することが難しくなっており、学校側の要望を充分引き出すことができず、実施までの過程を支援することができなかったことである。デマンドサイドの要望に応えられるように教育学部全教員の協力を求めるとともに、内容的にも方法的にも工夫し、研修実施に至る準備過程も含めて支援することで、子どもたちと教師を幸せにする校内研修を実施していきたい。

倉敷市の中学校で実施したQ-U調査については、調査→調査結果の読み取りと実践の改善をめぐる研修→実践の改善→調査のサイクルを回していくことが大切である。今後、倉敷市教育委員会と協働し、この調査の有効な活用策について検討する必要がある。

また、一回きりの研修で終わるのではなく、三軒小で実施したような、学生がオンデマンド研修後に研修テーマにかかわる支援を教職実践インターンシップとして継続実施するような形態をとっていきたい（オンデマンド研修と教職実践インターンシップとの結合）。

②教職実践インターンシップについて

今年度6校で実施することができた。学生は、通常の実習ではできない経験（体育会での全体指導、授業中の教室外での巡回指導など）ができ、教職への理解と意欲を深めることができた。各学校も多様な経験ができるように配慮して下さり、実習生に対する評価も高かった。

課題としては、今年度はプレ試行ということもあり、実習生の確保が大変であった。しかし、来年度は「応用実習」の中での実施することとなり、希望が多い場合は実習校を拡大し、実施体制を強化しなければならない。教育実地委員会等との協働も必要である。

また、教職実践インターンシップのカリキュラムを開発する必要もある。附属学校での実習とも、学校支援ボランティアとも異なり、教職実践演習と結びついたねらいと内容をもつものとして、どのような基本的なカリキュラムや学校毎に異なるバリエーションを開発できるか、今年度のプレ試行をふまえて研究する必要がある。